

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2014年 1月号 特集：心を届けよう YMCA国際協力募金



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

盛岡YMCAに連なる皆様へ

盛岡YMCA理事長 石渡隆司

2014(平成26)年の新年にあたり、皆様にとって本年が健康で、希望に満ちた充実した明るい年となりますよう、心から祈りあげます。

盛岡YMCAは、ご承知の通り昨年10月22日に設立30周年の日を迎え、同月26日には多くの関係者のご協力・ご参加を得て、30周年の記念の式典と祝会を開くことができました。この30周年という節目の行事を通して、私たちは、過ぎし日々われわれの活動を支えた力が何であったか、またその活動の底に流れていた目標が何であったかについて改めて考える機会をもつことができました。

そうしたこれまでの活動の回顧と成果とを分析し、盛岡YMCAの今後に引き継がれるべき活動全体を、30周年の記念誌のタイトルにありますように「自立と共生を目指す活動」と名付けました。

自立への意識は、個人の発達にとって最も重要な目標であります。少年期から青年期に至る過程では、自立は孤立することではなく、むしろ仲間たちとの触れ合いの中でこそ、自分の立場や役割に関する意識が発達し、自己を相対化する機能に結びついていくからです。

盛岡YMCAが目指す「青少年の健全育成」も、まず子供たちの、年齢に対して一律の発達や学力・能力基準を当てはめるのではなく、それぞれの発達レベルに応じて、プログラムでの目標に対する進捗度を高めるように指導することが中心となっています。こうしたYMCAの指導方針は、家庭や学校の教育では難しい、発達過程の子供の心の「危機管

理」を手伝うこと、と言えるのではないかと考えています。人間の生は、個人的にも、集団的にも、また地域的にも、つねにいくつかの「危機」と直面しなければなりません。そして「成長」とはそれらの危機を乗り越えること、すなわち身体的には脱皮であり、心理的には、心の広がりによって、自分を相対化し、自己の殻を破り、他者への眼差しが育まれ、社会的な自己に気付くことを意味していると言えるでしょう。

盛岡YMCAは、間もなく3年目を迎えようとしている「東日本大震災」を身近に体験したYMCAとして、個人の成長が、家族や地域や自然環境などと強く関連していることに注目し、その活動を子供たちの所属する地域社会の「危機管理」へのお手伝いも、現時点では主要な活動の一つとして位置づけ、今後も宮古のボランティアセンターを中心にさらなる役割を果たしていく所存です。

以上、31年目に入った盛岡YMCAの今年度の活動方針をご紹介して新年の挨拶に代えさせていただきます。今年も盛岡YMCAへのご声援をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。



心を届けよう！！ YMCAの国際協力募金

11月23日（祝）盛岡市内で小中学生、リーダー達が呼びかけ



YMCAではおなじみの「チクサクコール」をしていざ、寒風吹きすさぶ盛岡の街へ出陣！



11月23日（祝）YMCA国際協力街頭募金が、盛岡市内4か所で行われました。学童保育、サッカースクールの子も達や、大学生リーダー達が寒さの中、市民の方々に協力を呼びかけました。今回の募金（219,013円）は、フィリピン台風30号被災地緊急支援募金として使われます。

お昼は、もりおかワイズメンズクラブの方が作って下さったカレーライス。これも恒例です。

12月8日（日）街頭募金

宮古市内の高校生33名が参加



12月8日（日）午後1時から3時まで宮古駅前など3か所で、フィリピン台風被害の街頭募金を行いました。宮古高校、宮古商業高校、宮古水産高校が中心に、高校生33名と岩手大学教授、市役所職員、市民ボランティア（仮設住宅お住まいの方含め）、盛岡・宮古のYMCA職員総勢を加えた40名でした。

東日本大震災を経験した宮古でしたが、それだけに多くの高校生が遠い国の「ひとごと」ではないという気持ちで参加してくれました。冷たい風で、口がうまく動かず言葉を噛みながらもそれぞれが「自分の言葉」で協力を訴え、道行く人に気持ちが届きました。「寒いのがんばってね」また「いっぱい支援してもらったし、今度は…」と財布を出してくださるおばあちゃん。無言のまま、それぞれの募金箱ごとに入れてくださる男性。フィリピンへ募金が贈られるだけでなく、日本からも「共に復興をめざす」祈りや思いと一緒に送れたらと思います。（木田）



↑募金の集計は、宮古商業高校会計科の皆さん。募金額は、106,017円でした。



↑終了後は、ボランティアセンターで暖かいぜんざいで舌鼓。



←差し入れのケーキも美味しかったです。

フィリピンでは今 (YMCAの支援活動)

世界各地から送られた募金は、フィリピンYMCA同盟を通して、セブYMCA (セブ島) やイロイロYMCA (パナイ島) など被災地にあるYMCAによる支援活動に送られます。



子どもたちに温かい食事を提供 (セブY)



避難所にて物資を提供 (セブ島)



ケガをした子どもにも治療をする (セブY)



支援物資の袋詰め作業 (セブY)



テントを張り、物資を提供 (レイテ島)



「私たちにも支援を」と訴える人々 (セブ島)

少しでも恩返しを



2013年11月8日、フィリピン共和国中部を横断する様に超大型台風が襲いました。想像をはるかに超える竜巻級の強風と高潮が原因で、建造物の7~8割が倒壊したとも言われ、多くの死者を出したことは皆さんの記憶に新しいと思います。テレビで流れる映像を見て、非常にショックを受けました。フィリピンは私の第二の故郷とも言える地だからです。

リーダー時代にYMCAのタイ農村ワークキャンプに参加した私は、海外に目を向けることの重要性を実感しました。その後、JICA青年海外協力隊の隊員として2年間、フィリピン中部のパナイ島にあるイロイロ市で活動しました。

今回の台風で主に被害を受けた中部地域は農業や漁業が主産業で、その収入は決して高いとは言えません。台風が頻繁に通過する地域ですが、彼らもこれほどまでに強力な台風は経験したことがなく、さらに最も被害が甚大だったレイテ島では台風が通過したのは早朝でした。

フィリピンは多くの島から成る島国で、政府の進める支援活動が行き届くには相当の時間を要します。家族や親戚との結びつきがとても強く、困難なことがあればお互い助け合いますが、さすがにこの現状だとそれだけでは乗り越えるのが困難です。

フィリピンの人たちは実は大変な親日家で、東日本大震災が発生した際も安否確認の連絡をくれたり、限られた収入から募金をしてくれたりと、日本の被災者の気持ちを分かち合いたいと言ってくれました。今度はこちらから恩返しが出来ればと思っています。例えワンコインの募金であっても、貴重な食料や水、薬などが入手出来ますし、多くの人が協力すれば家を建て直す建材なども購入出来ます。ちょっとした気持ちですが、必ずフィリピンの人たちの未来につながります。日本・フィリピンのお互いの協力と思いやりで、両国の災害からの復興がますます進展していくことを祈っています。

(木下恵合子:旧姓 伊東 盛岡YMCAリーダーOG)

盛岡YMCAは、引き続き国際協力募金活動を行っています。ご協力下さい。

A 募金 (フィリピン台風30号被災地緊急支援募金) フィリピンYMCA同盟を通してセブYMCA(セブ島) イロイロYMCA (パナイ島) など被災地にあるYMCAによる支援活動を支えます。

B募金 (国際協力募金) 世界に広がるYMCAのネットワークを通じて国際協力・地域奉仕活動に用いられます

○ 貧困や災害など困難な状況にある子どもたちを豊かに育むための環境を整え、自分たちでよりよい未来を創っていけるよう活動します。

○ 国や地域の人々の暮らしのペースにあわせ、じっくりと息の長い活動を続けます。

○ 国内外の青年が国際活動にかかわる機会を作り、活動を通して学んだことを地域や社会で生かし、地球市民として貢献できることをめざします。

※ 同封の郵便振替用紙をご利用下さい

● 国際協力募金・
フィリピン台風被災地
復興支援募金敬称略順不同
(十一月二十日現在)
伊藤淳史、遠藤昌樹、熊谷圭
祐、大関靖二、杉田弘美、菊池
亨恵、鎌田章太郎、布川里樹、
布川英里香、布川英樹、齋藤稜
太、小塚健介、盛岡ニッタン株
式会社、大関靖二、松岡英樹、
重石桂司、齋藤稜太、和田海
璃、和田慈子、和田博泰、工藤
泰、遠藤昌樹、鬼柳忠彦、熊谷
太、守下昌樹、濱塚秋二、濱塚
れい子、菅恵、鶴丹谷三千代、
中村駿介、熊谷奈友多、角掛
蓮、盛岡YMCAリーダー会

キッズクリスマス (盛岡)



12月14日(土)日本基督教団 内丸教会の会堂をお借りして、キッズ・クリスマスが行われました。15名の子ども達に参加しました。大学生のリーダー達による、趣向を凝らした劇の後、内丸教会の中原真澄牧師より、クリスマスのメッセージを頂き、その後は恒例のプレゼント交換やゲームで楽しいひと時を過ごしました。

アドベンチャークリスマス (宮古)



アドベンチャークラブ12月例会

12月はやはりクリスマス会！ 14日の土曜日にボランティアセンターとなりの宮古教会で行いました。25名の子どもたちと岩手大学のボランティアのみなさんが来てくれました。始めに自分の大切なひとへクリスマスカードを作り、メッセージを書き込みました。それぞれ工夫を凝らしてデコレーションを張り付け、メッセージを一所懸命書き込んでいました。こんなカードをもらった人はさぞかしうれしいだろうなあ…。お昼からもう一つのお楽しみ、クリスマスのケーキを作ります。ホイップとチョコでデコレーションします。みんなが外へ遊びに行く中、有志の女子1グループが残ってみんなの分のホイップを作りました。サンタの帽子をかぶりおしゃべりしながらの「女子会」です。「もういいかな？」とペロリ(実はこれは内緒でした！)。

みんなで思いおもいのケーキをおいしくいただいた後、宮古教会の森分牧師よりクリスマスメッセージをいただきました。楽しい「イベント」のクリスマスのほかに、クリスマスの本当の大切さを教えていただけました。年の新たになるうとするこの時期にクリスマスの意味をかみしめるのも、イエスキリストからの大事なメッセージでしょうか。

1. 2月予定

- ★1月4日(土) 学童保育「ぷらいむ・たいむ」3期スタート(本町校、前潟校、向中野校)
- ★1月11日(土)～13日(月) 宮古ボランティアセンタースキークャンプ(於:秋田県営スキー場)
- ★1月10日(金)～1月13日(月) サッカー合宿 於:いこいの村岩手
- ★1月14日(火) 中3英語スタート 火曜水泳スタート
- ★1月17日(金) 盛北サッカースタート ※補講
- ★1月18日(土) 本町サッカースタート
- ★1月18日(土) ワイズメンズクラブ第1例会
- ★1月19日(日) 日帰りスキー 於:八幡平リゾートスキー場

- ★1月20日(月) 月曜水泳スタート 土淵サッカースタート
- ★1月21日(火) 火曜水泳休み 盛南サッカースタート
- ★1月22日(水) 水曜水泳スタート
- ★1月23日(木) 松園サッカースタート 本宮サッカースタート
- ★1月24日(金) 常議員、理事会 於:内丸教会 篠木サッカースタート 金曜水泳スタート
- ★1月26日(日) 日帰りスキー 於:八幡平リゾートスキー場
- 2月8日(土) ワイズ例会
- 2月15日(土)～16日(日) アドベンチャー2月活動「スキー&雪まつり体験」
- 2月22日(土) ワイズメンズクラブ移動例会
- 2月23日(日) サンディスクール 「簡単料理を作ろう！」

感謝

2013年年度
順不同・敬称略

●東日本震災被災地支援募金・献品

- 南原良哉、林間つきみ野教会、味田葉子、飯靖子、日本アーティストユニオン、茨城YMC A、宮古市魚菜市場青年部、菊池崇江、林間つきみ野教会、大阪YMC A松尾台幼稚園、木下恵合子、六甲学院、伊藤眞一郎、林間つきみ野教会、ワイズメンズクラブ東日本区北東部、ワイズメンズクラブ西日本区、横浜YMC A東とつか保育園、東矢高明

●維持会費

- 花田瞳、角谷晋次、角谷千代子、山澤美和、松尾聡子、石崎一之、池田二郎、佐藤翔、高瀬稔彦、杉田弘美、長岡正彦、名古屋恒彦、熊谷力實、大関靖二、熊谷太、古和戸周吾、及川茂夫、及川恵、一戸貞文、早坂春希、伊藤克見、鬼柳忠彦、濱塚れい子、清水弘一、谷藤敏多、吉崎陽、重石桂司、川守田浩、工藤直子、田村治之、北田

●寄付金

- 花田瞳、佐藤翔、高瀬稔彦、杉田弘美、古和田周吾、及川茂夫、及川恵、一戸貞文、早坂春希、伊藤克見、清水弘一、吉崎陽、川守田浩、中屋重正、今松桂子、増田隆、水田賢次、石渡隆司、今野健男、今野聖子、濱塚有史、濱塚真美、重石桂司、井上修三、伊藤眞一郎、小山憲彦、池田弘生、光永尚生、池上正彦、魚住英明、原寛、越前谷洋子、深澤秀男、中島敬泰

- アユ子、熊谷一郎、岩崎スエ、今松桂子、斎藤稜太、桑原良幸、増田隆、佐藤淳史、佐々木多恵、守下昌輝、水田賢次、石渡隆司、今野健男、今野聖子、菊池哉翔、清水治彦、濱塚有史、濱塚真美、濱塚恵太、花松行雄、長谷川精一、井上修三、井上優子、井上浩太郎、島岡孝匡、伊藤眞一郎、小畑孝子、菊池弘生、光永尚生、池上正、魚住英明、学校法人カナン学園、ロン・クレーラン、グレイズ・レディ、千葉洋子、鶴丹谷三千代、深澤多紀子、澤秀男、深澤多紀子